

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
生きる力を身に付け、地域の思いを受け継ぐときわっ子の育成	① 学校や家庭、地域との連携を強化し、コミュニティスクールの体制をつくり、信頼される学校づくりをめざす。 ② 基礎的な知識技能の定着と「言語活動」の充実を図り、思考力・表現力の向上をめざす。 ③ 児童が自ら進んで生き生きと取り組む教育活動の活性化を図る。 ④ 教職員の協働研修(ICT利活用の研修等)を充実させ、授業力向上をめざす。

3 目標・評価

① 学校運営: 学校や家庭、地域との連携を強化し、コミュニティスクールの体制をつくり、信頼される学校づくりをめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校経営	○学校経営方針	学校目標や本年度の重点目標の周知	・児童、保護者、教職員、地域に周知し、「学校の様子が分かる」と答える保護者を90%以上にする。	・学校便り、学校ホームページ、ケーブルテレビ、全校朝会、育友会活動等で周知する。 ・学校目標と行事等のねらいを関連付けて指導していく。
学校運営	○危機管理	危機管理体制の整備	・児童の交通ルール遵守に対する意識を高める。 ・教職員及び保護者の危機意識の向上を図り、交通事故防止、生活事故防止に努める。	・年度初めに交通安全教室を開き、児童の道路歩行及び自転車の安全な乗り方の指導を行う。 ・保護者と協力して通学路点検を年に2回行い、事故防止に努める。 ・日常の点検及び月1回の安全点検を確実にし、教職員の意識向上とともに校内の安全管理に努める。 ・学校だよりや学校ホームページ、学級通信等で保護者に学校での取り組みを紹介し、保護者との連携に役立てる。
学校運営	○家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	学校情報の公開と連携	・学校便りは月2回以上、ホームページの更新は週1回以上行い、学校情報を流すことで教育活動に関心を高める。 ・学級だよりを定期的に発行する。	・児童の活動の様子をカメラなど随時記録し、広報活動の資料に活かす。 ・学級だよりを発行し、児童の学習の様子や授業の様子を知らせ、家庭との連携に生かす。
		コミュニティスクール・官民一体型学校づくりの推進	・コミュニティスクールの組織をつくり、地域連携の体制を整える。 ・地域人材の登用を各学年年間1回以上取り組む。 ・「花まるタイム」「青空教室」「なぞペー」を実施することにより、学習に対する意欲の向上、学習習慣の定着、基礎的内容の定着、思考力の基礎を養うことをめざす。	・公民館など町内の各組織との関連行事を整理し、組織との位置づけを明確にし、効果的に実践していく。 ・地域人材の更なる発掘と人材登用に努める。 ・学校支援地域本部と連携して「花まるタイム」を計画的に実施する。 ・「青空教室」「なぞペー」は、学年の実態に応じて計画的に実施する。

② 確かな学力の向上と定着: 基礎的な知識技能の定着と「言語活動」の充実を図り、思考力・表現力の向上をめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着及び思考力・表現力の向上	・児童が学ぶ意欲を高め、自主的に学ぶことのできる授業づくりを行い、基礎学力の定着と思考力・表現力の向上をめざす。 ・「授業がわかる」という児童を80%以上にする。 ・国の学習状況調査において、全学年、全項目の平均正答率を上回ることをめざす。 ・個に応じた指導支援の充実を図る。 ・図書館貸し出し数 一人100冊以上をめざす。	・算数科を中心として学び合いの充実を図る手立てを工夫し、思考力・表現力を向上させるための授業研究に取り組み、校内授業研究を充実させる。 ・学習状況調査等の結果を分析し、児童の実態に合わせた手立てを考え、指導方法の工夫改善に取り組む。 ・ICTを効果的に利用した学習過程の充実を図る。 ・授業の内容と連動させ、主体的に学ぶ力を高める家庭学習の在り方を工夫し全職員で共通理解を図りながら実践する。 ・「花まるタイム」を充実させるとともに、補充学習(毎週火曜日の放課後)を計画的に実施する。 ・図書環境の充実を図るとともに、テーマを設定するなど、児童の意欲と質を高める読書指導を行う。
教育活動	○学習環境の改善充実	基本的生活習慣・学習習慣の定着	・「早寝・早起き・朝ご飯」を奨励し、生活のリズムを整えるなどの目標達成率90%以上をめざす。 ・話す人を見てうなずきながら最後まで聞くなどの学習習慣の達成率90%以上をめざす。 ・毎月1回のノーテレビデーの実施率を90%以上とする。	・児童と保護者による「ときわっ子生活ふり返りカード」等への記入により、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・話し方や聞き方のモデルや約束を提示し、定期的に振り返らせる。 ・「学習用具の約束」「家庭学習(自主学習)の手引き」を作成し、家庭での学習習慣を定着させる。 ・毎月初めのノーテレビデーでは取組レポートを提出してもらい、実施状況を把握するとともに実施意欲につなげる。

③ 豊かな心を育む教育活動の推進: 児童が自ら進んで生き生きと取り組む教育活動の活性化を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図る。 ・家庭や地域、関係機関と連携した体験活動の充実を図る。 ・違いを認め合い、支え合い、つながり合う仲間づくりをめざす。 ・「人権」尊重の意識を常にもって全ての教育活動に当たる。自分も友達も大切にできる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化へ向けて、体験活動と関連させた道徳の年間計画を整備する。 ・「ふれあい道徳」を実施し、保護者や町民に道徳教育の状況を公開する。 ・あいさつや言葉遣いについての効果的な指導方法を検討し、心の豊かさを醸成する。 ・人権集会や人権週間を設定し、児童・保護者・地域への啓発や発信を積極的に行う。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やいじめに対して、未然防止・早期発見・早期対応に適切に対応できる教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携強化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートを毎月末に実施し、状況把握に努める。 ・Q-Uを5月・10月の2回実施し、学級での児童の状況を把握する。 ・担任と児童の個人面談を、5月・11月の2回実施し、児童の状況を把握し、適切な対応に努める。 ・察知されたならば、児童との面談後、「覚知」、「認知」の判定を行い、状況によっては、22条委員会を設置し適切な対応に努める。 ・事案の解決に向けては、学校として、組織的、計画的に取り組む。
教育活動	○体験活動	「ときわっ子体験活動」を中心とした体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作体験、野菜づくり、サツマイモ栽培等の体験活動を通して、勤労生産の意義や作物と自然との関わりを学ばせるとともに、地域の思いや願いを大切にしようとする意識を高める。 ・地域の方と体験を通して関わりを深め、感謝する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の体験活動を見通し、事前指導を行ってから活動に臨ませる。また、事後の振り返りをさせ、その後の学習につなげる。 ・他教科や道徳教育において、体験活動を関連させた学習計画を立てて実践につなげる。 ・保護者及び関係団体に年間計画を配布したり、情報を早目に伝えたりすることで、より円滑な運営ができるように心がける。 ・地域の方とのつながりを児童に意識させ、日頃の挨拶や感謝の気持ちの表現ができるようにする。

④ 教職員の資質や指導力の向上: 教職員の協働研修(ICT利活用の研修も含む)を充実させ、授業力向上をめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	授業研究及び職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1回の研究授業を行う。その際講師招聘を2回以上行う。 ・授業研究会や研修会等に積極的に参加し、自己の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において、研究授業を計画的に実施する。 ・授業研究協議会の持ち方を工夫し、「言語活動の充実」や「学び合い」といった視点での反省を行い、その後の授業実践に生かせる具体的な手立ての実践につなげる。 ・教育センターの講座や夏季休業中の研修会等に参加し、職員相互で意見交流をする場を設定する。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	授業研究及び職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやデジタル教科書、デジタルコンテンツ等の効果的に利用した分かりやすい授業づくりをめざす。 ・「ICT(電子黒板やタブレット等)を使った授業は分かりやすい」という児童を80%以上にする。 ・ICT利活用教育の質の向上を図るための職員研修を2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の効果的な活用に関する職員研修を夏季休業等を利用して2回以上実施する。 ・研修を適宜実施していくことで、タブレット、「e-ライブラリ」等の活用の能力を高める。 ・授業に効果的なコンテンツを積極的に活用して、児童の授業理解を深めるようにする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

⑤ 健やかな体を育む教育活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善と定着化	・児童の運動習慣の形成や運動意欲を高め、体力向上を図る。	・新体力テストの結果を基に、児童の実態や体育の授業実践について意見交流する場を設け、指導計画を見直したり、体育の授業の充実につなげたりする。 ・外遊びを奨励するための手立てを検討し、職員で共通理解を図る。 ・委員会活動や縦割り活動と連携した「運動集会」等を企画し、運動意欲を高める。
		望ましい食生活習慣の形成	・食育指導を計画的に実施し、「食」の自己管理能力とマナーの向上に努める。	・毎月の給食の目標を意識した指導を行う。 ・「ときわっ子体験活動」や道徳、学級指導等と関連させて、食の重要性や食に関わる人への感謝についての指導を行う。

⑥ 時代のニーズに対応した教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別支援教育の充実	特別支援教育の支援体制の充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として校内支援委員会の活性化を図る。 ・個別の支援計画・指導計画に基づき、児童のニーズに対応した指導・支援をめざす。 ・交流学級との連携をとり、全校児童の融和的児童交流を促進する。 ・教職員全体の専門性の向上と校内支援体制の充実を図る。	・児童支援研修会を年4回実施し、児童理解と適切な支援を行う。 ・QUアンケート結果をもとにした校内支援のための協議会を開催する。 ・特別支援担当教員と学級担任で連携して、交流学級での円滑な活動に努める。 ・夏季休業中に「発達障害のある児童に対する支援」「個別の教育支援・指導計画」についての職員研修を行う。 ・支援計画を定期的に見直し、専門機関から助言を得ながら支援の充実を図る。

【共通評価項目】●必須項目、◎特定課題、○は独自評価項目